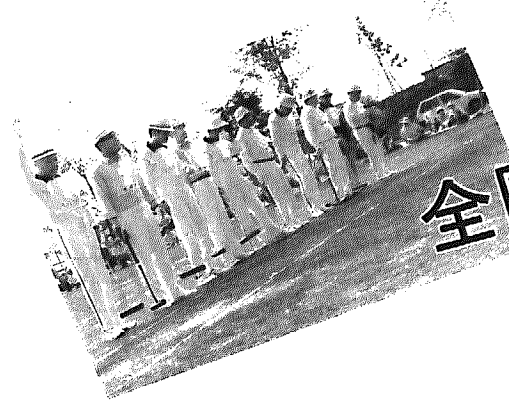


町の底力を見せた黒埼のゲートボール

全国大会へ3チームが出場



七月八日九日の二日間、新発田市の中央公園で行われた第三回新潟県選抜ゲートボール大会で、四部門のうち三部門で、黒埼町から出場したチームが優勝、来年五月に高知市で開かれる全国大会への出場を勝ち取りました。ほかにも四チームが三位までに入り、今だかつてない快挙をなしとげました。八月九日、優勝した三チームの皆さんと浅妻町長が懇談しましたので、その模様をお知らせします。(司会は社会体育係・佐久間)

まさか優勝するとは：

司会 各チームの代表からこの大会の報告を兼ね、感想をお願いします。

東条 出場する以上はミバの悪いことはしたくない、と思って力を合せてやった。力量が同じ程度なので、一回戦で勝って勢いがついた。しかし、まさか優勝するとは思ってなかったですね。木口 今年は何せ選手がい



浅妻町長

「敵強し、我幸運」が大事

なくてあちこちからやっと集めたので、優勝はできないなと思っていました。でも、皆さんの力も出て、試合は意外と楽でした。最後は黒埼同士で、いつもやっける相手だったので：全国大会へは一生懸命、練習した上で出たいですね。川合 県大会なんてあまり経験がなくて、一勝はしたいなと思っていました。最初にあたったチームがまだ始めて間もないということとで気軽にやれたのでしょいか、パーフェクトがとれました。次も難しいかなと思っただけですが、私たちが勝つたのでなくて、皆さんから

【出席者】

- 黒埼くろがね(ミドル男子優勝)
- 木口昭六、森田嘉夫(*)、若林敏(*)、佐々木武(*)、高橋孝一
- 鳥原レディース(ミドル女子優勝)
- 川合悦子、戸沢セン、笹川トリ、杉本かほる、笠原喜久
- 黒埼大野(シニア男子優勝)
- 東条光雄、中野達雄、杉本吉春、松井常雄、橋爪八左エ門、遠藤正四、大坂正男
- ※敬称略。(*)は欠席者。
- ◆入賞チーム(黒埼町関係)
- ◎ミドル男子②CP③黒埼木場
- ◎ミドル女子③CP
- ◎シニア女子③黒埼大野
- ※ミドルは60歳以下、シニアは60歳以上。

勝たせていただいたようなものです。幸運だったと思っ、喜んでいきます。町長 大奮闘されてまだ、その喜びがさめやらないところだと思えます。「敵強し、我幸運」ということばがあります。強いチームにあたったとき、ああ、どうしようと思うのは消極的、負ける要因になります。これに勝てばという前向きな姿勢、これはどんな場面でも今いちばん大事なことです。来年は五か村合併九十年、三年たてば町制施行二

十周年を迎えます。この時期にやればなんでもできるという自信、誇りが大切。なんでもよくなっているなあと感じているところです。司会 それでは、選手の皆さんの心境はいかがでしょう。中野 勝ち負けはしょうがないとしても、立派な試合をしたいですね。戸沢 軽い気持ちでやったのがよかったのでしよう。全国大会でも気楽にやりた

い同じ。練習を積んで普段の力を出せるようにしたい。体にいいスポーツです

司会 では、皆さんのゲートボールを始められたきっかけをお聞かせください。松井 年寄りになると時間を

もてあますのでは、という事で、町内の皆さんに話をし始めました。最初十四人いたのですが、年には勝てなくて、三人が亡くなり、四人が休会。若い人が入ってきてくれないのが問題ですね。

杉本 退職して何するってこともなかったんで、始めました。やってみると体を動かしていい。うちにばかりいると、足の調子がよくないんです。やらない人にも勧めます。

大坂 とにかくやれば話ができるってことで始めた。始めたはいいが、ジサらずけ、あんまり勝ってばかりだと難儀だ。優勝して迷惑(笑い)。あと、下手なのも上手なのもあるわけだから、「和」というものが大事。それがあればミスしてもだれかが、補ってくれる。司会 女性のかたにお伺いしますが、ゲートボールを

若手育成にナイター施設を



木口さん
(黒埼くろがね 監督)

県代表に恥じないプレーを



東条さん
(黒埼大野 監督)

気軽にやれて、幸運だった



川合さん
(鳥原レディース 監督)

始めて、いかがですか。戸沢 主婦だし、仕事もあるし、まわりの人はなんてのんきな人と思ってるんでしょうけど、かえって時間のやりくりが上手になったように思いますね。

笠原 今までは血圧低くて不整脈でなんか体の調子が悪かったんですが、ゲートボール始めてから元気になりました。これでも、少しやせたんですよ(笑い)。



懇談会のようす

杉本 私も体が丈夫でないから、ちょうどいい運動とっています。司会 町長もゲートボールをやっておられますが、町長のゲートボール観をお聞かせください。町長 まだやる年ではない、とか八十になったからダメ、といった考えは持たない方がいい。七十、八十でもまだまだだ。これからは、若い人も食わず嫌いはいかんと思う。確かにゴルフより体を動かさないと、やり方しだいで体を動かせると思う。これからは一生懸命、若い者を指導していくべきだ。そうすれば、若い人もひかれてやり始めると思う。

若い人を育てなくては

司会 大会に出るとなると経済的な負担も大きいと思

遠藤 勝つのはめでたいが大会に行こうとすれば札がいる(笑い)。来年は三チームが選抜大会に行くわけですが、限られた会計の中です。頭が痛いところ。せっかくの大会ですから気持ちよく戦ってこれるようにと考えています。町長 町も県のスポーツ振興基金のような制度を検討しています。大坂 頂点に立つとあとは落ちるだけ。上り坂の時がいちばんいい。だから、何でもそうだが、育てることが大事。ゲートボール人口が増えれば、それだけ素質のある選手も増える。木口 若い人がやろうとすると、勤めから帰ってから練習ということになると思。そうするとナイター設備が、若い人を育てていく上でも必要なのは。平常心でいいプレーを

司会 それでは全国大会に向けての抱負を。東条 新潟県の代表として恥じないようにしたい。木口 何としても決勝トナメントへ出たいですね。川合 慣れないことですが、雰囲気にもまれないよ

*町のゲートボールの現状
現在、町ゲートボール協会に登録されている人数は340人。年齢としては11歳から86歳まで、層が厚いと言え。年代構成を見ると、60歳代が最も多く40%を占める。ついで70歳代27%、50歳代15%、40歳代12%、80歳代3%。なお、20歳以下が8人いる。
全人口に対する比率は1.42%で、県内112市町村中では45番目になる(1位は西山町で5.39%)。町内でも、野球の600人に次いで会員数が多い。町内にあるコート数は28面(河川敷のコート8面は7月から使用できなくなったため除く)。

う全力投球でがんばりたい。司会 では、最後に町長から激励の言葉を。

町長 県の代表として精いっぱい、いいプレーをしてきてください。ただあんまり緊張しないで、「敵強し、我幸運」という考え方で常に平常心でやってください。一人一人の努力を大切にしてください。この喜びを倍加するよう、皆さんの活躍を期待しています。